

## 答辞

冬の寒さは遠のき、暖かな日差しが感じられる季節になりました。新型コロナウイルスの影響による、式典の中止は甚だ残念ではございますが、私たちが無事、今日この日を迎えることができましたのも、学長をはじめ、先生方、職員各位、保護者の皆様のあたたかいご指導、ご支援のおかげであり、卒業生、修了生一同、深く感謝しております。

月日が経つのは早いもので、新たな環境への期待と不安を抱き出席した入学式が、つい昨日のこのように感じられます。改めて大学生活を振り返ると、非常に有意義な時間でありました。

私は工学部コンピュータ理工学科に入学し、情報科学技術を学びました。入学当初の私は、専門分野における知識や技術をはじめ、様々なことに関して未熟でありました。特に、プログラミングは全くの初心者であり、当時は挫けそうになることもありました。しかし、先生方の熱心なご指導とサポートにより、技術者としての基礎力や創造力を身に付け、コンピュータサイエンスの奥深さとロマンを教えていただきました。また、エンジニアを目指す同じ目標を持った仲間と共に、議論を交えて課題に取り組んだり、将来について語り合ったりと、充実した日々を送ることができました。

課外活動では、1年次に中国の杭州電子科技大学へ留学しました。また、3年次と4年次は中国の四川大学で開催された国際サマーキャンプに参加しました。ITの進歩が著しい中国において、同じ情報技術を学ぶ海外の学生と交流を図ることで、自身の技術力を確かめ、学習の指針や更なるモチベーションを得ることができました。さらに、異文化交流を通じ、日本では得られない発想や価値観を見出し、人間として成長することができました。

卒業研究では、医学部との共同研究を行いました。大学生活で培った知識と技術を存分に活用し、研究が順調に進む時もあれば、知識不足を痛感し、思い悩むこともありました。そのような時も、先生方や仲間の支えにより、困難を乗り越えることができました。また、研究を通じて貴重な経験をさせていただき、多忙な日々を過ごしましたが、共同研究者の医師の皆さんから、研究成果における実用性の認定と高評価を得られた時の達成感はいかえのないものとなり、大学生活の集大成として胸を張って発表に臨むことができました。

4月から、私達はそれぞれの道へ進みます。私達が歩む現代社会は、変革期の最中にあり、日本をはじめ、世界を取り巻く環境は日々凄まじいスピードで変化しています。私達が学んだ常識は、数年後の常識であるとは限りません。また、昨今の新型コロナウイルスのように、未曾有の事態が起きる予測不能な時代であり、これまで以上の困難が待ち受けているかもしれません。しかし、私達は山梨大学で培った知識、技術、経験を基盤に学び続け、降りかかる困難に打ち勝ち、飛躍し続けることをここに誓います。

最後になりましたが、学長をはじめ、未熟な私達に温かい励ましとご指導をくださいま

した先生方，様々な場面で私達を支えてくださいました職員の皆様，共に歩んだ仲間達，そして，今日まで私達の成長を見守り続けてくれた両親に心より御礼申し上げます。

皆様の益々の御活躍と，山梨大学のより一層の発展を願って，答辞の言葉とさせていただきます。

令和2年3月19日

卒業生代表

工学部コンピュータ理工学科 中村 有希